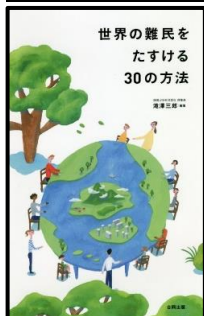




# 新着図書案内



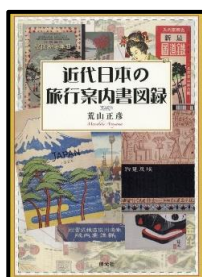
2018年7月発行



## 『世界の難民をたすける30の方法』

複雑な難民問題をできるだけわかりやすく解説した本。難民生活の実際や当事者の声を通じて難民問題を理解し、支援の具体的なアクションを起こすためのヒントを伝える。

滝澤 三郎 // 編著 合同出版



## 『近代日本の旅行案内書図録』

明治初期から昭和戦前期に至るおよそ70年間に出版された「旅行案内書」の系譜をたどる一冊。彩色豊かな図版約600点を高精細画像で収録し、旅行・観光から近代日本の姿を浮かび上がらせる。

荒山 正彦 // 著 創元社



## 『皇后四代の歴史』

明治から平成まで、天皇を支え「世継ぎ」を産み、さまざまな活動をした4人の皇后。時代とともに大きく変容してきた役割や社会の中でのイメージを、公と私をテーマにエピソードを交えて描く。

森 暢平 // 編 河西 秀哉 // 編 吉川弘文館



## 『アルゴリズムが「私」を決める』

Googleが知ってる“あなた”はだれ? 検索履歴やスマホの位置情報から自動的に生成され、刻々と変貌しながらデジタル空間をさまよう「データの幽霊(=デジタル・アイデンティティー)」の正体を追う。

ジョン チェニー=リップoldt // 著 高取 芳彦 // 訳 日経BP社



## 『化石が語る生命の歴史 [1]』

この化石の発見で、生命の発生がわかった。最初期の化石からカエルの起源まで、古生代の11の化石を紹介し、古生物学者たちの苦悩と悦びにみちた研究史とともに生命の歴史を語る。

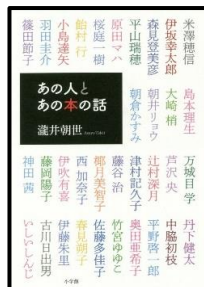
ドナルド R.プロセロ // 著 江口 あとか // 訳 築地書館



## 『名建築は体験が9割』

建築の本質は「体験=内部空間」にあった! 巨匠の建築をもとに、いかに「体験」からの発想が名作を優れたものになっているかを、鮮やかに分析。建築のみならず、ユゴーらの小説や美術作品からも空間を語った、画期的な建築論。

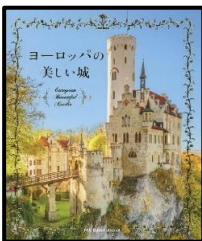
ロバート マッカーター // 著 百合田 香織 // 訳 エクスナレッジ



## 『あのひとあの本の話』

伊坂幸太郎、森見登美彦、原田マハ、羽田圭介、島本理生、朝井リョウ…。64人の小説家が著作について本気で語ったインタビューを収録。『きらら』連載「今月のPick UP」を一部抜粋し、加筆・訂正。

瀧井 朝世 // 著 小学館



## 『ヨーロッパの美しい城』

ノイシュヴァンシュタイン城、ヴェルサイユ宮殿、ウインザー城、ロック・オブ・カシエル、クレムリン大宮殿…。人々を惹き付けてやまないヨーロッパの城と宮殿を、美しい写真で紹介しします。

パイインターナショナル

\*掲載しているものは新着本の一部です。新着本は随時ホームページで公開していますので、そちらもご覧下さい。  
\*紹介文はTRCマークより引用。\*書影は日外アソシエーツブックデータASPサービスを利用。または出版社より許諾を得ています。





## 『ことばが消えたワケ』

明治から平成までの間に生まれたり、はやったりしたことばで、今や消えた、あるいは消えかかっていることば(主に俗語)を振り返り、時代の変化とことばの関係をさぐる。巻末に語彙索引、事項索引を掲載。

米川 明彦 // 著 朝倉書店

## 『ソウルフード探訪』

食欲と好奇心が刺激される世界の食が一堂に集結。笑いあり、涙ありの食レポエッセイ。各国のソウルフードが食べられるお店情報も掲載。『ナショナルジオグラフィック日本版』連載を加筆し書籍化。

中川 明紀 // 著 平凡社

## 『Harumi 栗原はるみのわたしの味』

料理家・栗原はるみが、特に外国の人に覚えてほしい日本の家庭料理を厳選し、初めての人にもわかりやすいよう基本を押さえ、海外でもつくりやすいように材料などを工夫して紹介。和食で使う道具なども取り上げる。

栗原 はるみ // 著 NHK出版

## 『イスラム流幸せな生き方』

結婚・仕事・家族・食事…。イスラムは、実はこんなに寛容な宗教だった! イスラムの社会やコミュニティに入り込み、そこでの生活や文化を記録してきた著者が、写真とともにイスラムのほんとうの姿と魅力を伝える。

常見 藤代 // 文 写真 光文社

## 『ボクシング日和』

ボクシングは、こんなにもドラマに満ちている! 後楽園ホールで、大阪で、マカオで、戦う男たちに叫び、涙し、祈る著者のボクシング観戦記。選手プロフィールつき。『ボクシング・マガジン』『ランティエ』掲載を単行本化。

角田 光代 // 著 角川春樹事務所

## 『カラスの文化史』

ある時は不吉の象徴、ある時はよき友として、各地の伝説に姿を現す漆黒の鳥「カラス」。多数の図版とともに、カラスという魅惑の鳥たちとの日々のお会いと豊富なエピソードを紹介し、文化と科学の双方からその正体に迫る。

カンダス サビッジ // 著 松原 始 // 監修 エクスナレッジ

## 『絵を読み解く絵本入門』

どのようにして「絵」を読むのか? 絵本の「絵を読み解く」理論と分析を、海外・日本の作品の読解を通して体系的、網羅的にわかりやすく解説する。「宮沢賢治-宮沢賢治の童話絵本をめぐって」など、エッセイ5編も収録。

藤本 朝巳 // 編著 生田 美秋 // 編著 ミネルヴァ書房

## 『子どもの着物大全』

雛祭り、端午の節句、七五三と、子どもの成長を願う行事が日本には古くからあります。子どもの着物の知識、歴史や由来を、四季の行事とともに、さまざまな着物を紹介しながら解説します。

似内 恵子 // 著 誠文堂新光社

## 『知ってるつもり』

人はなぜ、自らの理解度を過大評価してしまうのか? 気鋭の認知科学者コンビが、行動経済学から人工知能まで各分野の研究成果を総動員して、人間の「知ってるつもり」の正体と、知性の本質に挑む。

スティーブン スローマン // 著 フィリップ ファーンバック著 早川書房

## 『発達障害を生きる』

発達障害の当事者に世界はどう見えているのか? 近年、注目を集める発達障害の知られざる実態を、科学的知見と当事者たちの声を通して紹介する。NHKスペシャル放送をもとに書籍化。

NHKスペシャル取材班 // 著 集英社

\*掲載しているものは新着本の一部です。新着本は随時ホームページで公開していますので、そちらもご覧下さい。  
\*紹介文はTRCマークより引用。\*書影は日外アソシエーツブックデータASPサービスを利用。

